

2012年6月4日

だがしや楽校を開こう！～人が、地域が生き生きしていく「和」のコミュニティ学習～

学習指導者 松田道雄（東北芸術工科大学教）

学習支援補助者 谷原博子（地域コーディネーター）

第一回講座タイトル : ガイダンス「だがしや楽校」ってなに？

松田さん

おはようございます。山形弁丸出しですので、聞きづらいところがあるかもしれませんがご容赦くださいね。

4年前に、杉並区の高千穂大学の教員になりまして、その時にこちらの社会教育センターの方から、おとな版だがしや楽校をつくりたいと声をかけてくださったのが縁で、開講しました。以来、毎年いろいろな試みをしています。

こちらにある資料は今までのものですので、ご覧ください。基本的な考え方は、人生をよりよく生きにはどうしたらよいか、ということと、コミュニティ作りです。そういったことを堅苦しいことではなく、昔の遊び心を思い起こしつつ、学校教育のようなものでない、経験や人間的なつながりや支えあいを軸に大人の学習として取り組みます。それが遊びなのか、仕事になってもよいのか、色々なことが杉並で生まれていったらよいなと思います。

また、毎回あるということが、人間関係を深める機会になります。興味ある方同士が、自主的につながっていく。



各地にこのような活動をされている方が沢山いますので、日本全国とつながっていくこともできます。メインの内容としては、楽しく杉並の活動を知り、お互いを知り合っていきましょう。だがしや学校については、ミニガイドスを行います。

谷原さん

大きな目的は、まずお互いを知り合うことです。

今年杉並区は80周年で、それを記念して「杉並かるた」ができました。

杉並の色々な場所がのっていますから、親しみやすく楽しいと思います。

4グループ7、8人ずつに分かれてかるた大会をやっていただこうと思います。

それでは、はじめてみてください。



杉並かるた

杉並区の風物、文化、歴史などをテーマにしたカルタ。

ふつうのカルタと同様、読み上げられたら、対応する絵札をとる形式。

遊んでいくうちに、自然と杉並区のことを知るようになる。

「ああ、こんな景色があるのね！長い間、住んでいたのに知らなかったわ」

「自然が多いのは実感していたけど、歴史や偉人も所縁があるんだ」

絵札をとると、発見や思い出話が聞かれた。

松田さん

いかがでしたか？本当にたのしかったですね！

ところで、

廃人という言葉聞いたことがありますか？最近の若い人は、廃人が増えているそうです。ネット廃人、ツイッターやネットゲーム廃人といっています。ツイッターをみてないと気が済まないくらい中毒のように見てしまうのです。

今の自分の生活はインターネット依存か、そうではないかをアンケートしたところ、7対3でした。どんな比率が望ましいかは、5対5。子育てに携われるようになったとき望ましい比率は3対7がいいそうです。インターネットはつまらない、直接体験の方を優先したいのですが、そのような体験の機会がないそうです。若い世代も体験の場をほしいのです。

昔は、我々はカルタをよくやりましたよね。素晴らしい生活文化です。このような場に、若者や子供が入ったら本当にいいですね。

この講座は座学ではありません。生きて生活している大人は、知恵や人生経験をもっているのです。お互い学び合っていくものです。しかもそれを活動にしていく、このカルタも杉並区の方がつくったもので、そのおかげで、我々が利用できて、さらに広がってこんな発想だったら色々やれるのか、と気付いたり、かるたが媒体となった訳です。変容させて人とコミュニケーションの媒体になるものです。

アイディアの発想の源は、創意工夫して子供の時に遊んだこと、ありとあらゆることを出し合っていけば、何か生まれるのでは？このあとの人生の生き甲斐、それが自分や他者や地域の方にも役に立ったら非常に素晴らしいことだと思います。世の中にフラワーアレンジメントやヨガなど有料の講座が沢山あります。自分だけのためならそれでよいですが、この講座は行政が作って、自分のためだけではなく、自分の人生を追求しながら結果として、ここにいない方、家族や親戚、友人、地域の方、遠方の方などに、影響を与え合って繋がっていきけるのがミソだと思います。世代間の交流は重要です。特に団塊世代の方が退職しますと、経済的にはどんどん消費されればお金の循環になってよいと思います、次の若い世代の方は不安を感じています。

ここにいない、いる方々に目配り、気配り、思いやりを持って、世代間交流、次の時代に何かできるかを同時に考えてほしいです。それが、自分だけの教育ではなく、社会教育の重要な意味合いですそれを楽しく、学んで行動していくのです。このような場が日本には沢山あって、今ここに、横浜、栃木県下野市、長野県上田市、世田谷区、野村ビルから、社会教育分野の関係者も参加されています。行政の仕組みは違って、基本的な趣旨としては同じです。インターネットだけではなく、リアルな場でも、直接的なつながりを作ったら楽しいのではないのでしょうか。

皆さんがいま着ている服装は杉並ブランドではないように、自給自足はありません。生きていく上で、世界中どこかの国と繋がっているのです。そういった視点で、一番の発想のもとを今回は駄菓子屋があったころの地域社会に置いて、皆さん一緒に学び合っていきましょう。

例えばかるた、杉並区のことすべてが含まれています。どこの地域も同じよう

に作れるでしょう。去年は、既成の地図に歩いて撮った写真を貼り付けてオリジナル地図を作ったり、この冊子は、山形で私が学生のグループを作って、法人とつなげて作ったのですが、雑誌や媒体、タウン誌を何かとコラボして作っていくと、もっと広がるかもしれないですね。ここの中だけで完結しない、ということが大事です。



それから、次回からはお互い何か「もの」を持ってくること大歓迎ということにしましょう。ものがないと話だけになり、話だけの良さもありますが、我々が生きている世界は話だけではありません。いろんなもののトータル、それがかつての駄菓子屋の意味合いなのかな、と思っています。駄菓子は、大人から見ると馬鹿にしていますが、あのときにあった良さもあり、子供向けにできるだけ安価に作っていたものですが、それを子供たちはまた小さく割って、分け合いっこしていたものです。お配りしたのは、駄菓子の昔のアイデアで、大人向けに何かつくれないかなと思って作った飴です。

みなさんの活動はこの部屋の中だけで完結するのではなく、実際の大人の生活、経済活動に関わることも大賛成です。

今、舐めていただいている「おすそわけ」の飴は山ブドウの原液からつくったものです。皇室限定のお菓子屋さんにも卸している原液を使い、薬品や添加物、砂糖も使わず山ブドウの原液を大なべで煮詰めて作りました。最初、飴会社の

社長さんに相談したら、香料と着色料で山ブドウの味がつくので、それでいいと言われたのです。そのように、我々はイメージの世界の中で、「らしくされたもの」で生きているのですね。

そうでないものにするためには 逆転の発想で「語り」をいれなくてはと思い、これを作りました。

このように、実験的に何かと組んで、聞き語りをして紹介し、商品化することもできるでしょう。ビジネスを始めようとしたら、大変ですが、まずは人間関係です。同じようなことを杉並区からできたら素敵ですよ。これは特に下町、谷中あたりで売るとよく売れるそうです。かつて駄菓子屋の周りで、分け合いっこしていた子供のように、分け合って、口に含みながらおしゃべりしながら下町を散策するようです。かつての駄菓子屋遊びの発想を、地域づくりや町興しや生涯学習の学びの発想とか色々組み合わせるとやれるんじゃないかな、ということで、今提案して実験したりしています。

「月山の宴」山ぶどう飴通信

平成24年5月12日

1m以上ある山ぶどうの棚の上まで積もった今年の豪雪も消え、雪峰・月山の雪解け水で農作業が始まる季節になりました。山ぶどう園主の工藤さんからは、次のようなメールをいただきました。



「山ぶどうの成長はお蔭様で順調です。豪雪の影響は今のところ出ていないようです。芽吹いた芽を全部伸ばしますと品質の低下や病害虫の発生につながりますので残す芽だけを残しほかは除いてしまう「芽欠き作業」も終わりました。」

昨年収穫した山ぶどうの原液は、今年は早くも完売したとのことでした。もともと山に自生していた山ぶどうは、ポリフェノールなどの滋養が豊富です。その実をしぼった原液を煮詰めて、砂糖・香料(山ぶどうの風味)・着色料(色)など何も添加物を入れずに、そのまま飴に固めました。ですから、味もそっけないかもしれませんが、それがそのまま本物です。散歩している方などには、口あきがない、素朴な味などの感想をもらっています。みなさんはいかがでしょう？ こちら、山形の山ぶどうの成長はまたみなさんにこの通信でお知らせします。

(大地と人と農の語り部・松田道雄、ブログ: 駄菓子屋染校)

〒990-0711 山形県西川町大字吉川 1104

TEL: 0237-74-3478 山ぶどう工藤農園 工藤健一

山ブドウ飴の説明書

作った理由、思い、地域の情報がつまっている

食べ物以外のものでも、これはニット工場の残りもので、産業廃棄物としてお金を払って捨てるものですが、何かできそうですね。ものがあれば人生の経験から、何かアイデアが浮かびます。みんなが作らなくても、紹介したり、カメラで撮って、コーディネートしたり誰かにおしえてあげたり、こういうことでつながります。

大学ではニットタイを作る学生がいましたが、教授にはニットの専門家がいま
せん。どうしたらよいかわからなかったところ、地域の方でニットが得意な方
がいて教えていただいたのです。

これは絨毯工場の糸。山形のおしゃべり手芸の会、小泉さんの分けっこ手芸の
会と交流ができ、そこに材料をもってきたのですが、60、70、80代位のおばさ
まがこれを作って僕に持ってきてくれました。自分のために作るだけだとつな
がり生まれません。そこのおばさんの素晴らしいのは、できたものを受講生
みんなにプレゼントしていたんですね、分かち合いが大事なのです。



この感覚が人間の一番の始まり。

20万年前の首飾りの作り方が、いまもアフリカの部族に名残があります。あ
んなにジャラジャラしているかという、あれは、自分のために作るのではな
く全部プレゼントだそうです。飢饉の多いアフリカの大地でどうやって生き延
びてきたか、結局生きるための助け合い、分かち合いなのです。食べ物も分か
ち合い、お互いに助け合う。あの人からもらった首飾りは、あの方は困ったと
きに頼りになる、助けてくれる、といういざ何かあったときの絆のしるしなの
です。重要なのは分かち合いと協力です。

ところが、2000年前古代ギリシャでお金が発明されて普及してから、助け合い
の関係が薄くなってきました。お金は蓄財と権力構造しかありません。お金だ

と分け合うのではなく、自分の子どものために蓄えておく。それぞれの蓄財、蓄財、となっていき、しかもお金さえあればあらゆるものが買えるようになり、お金での消費、自分のため、と人間の心も 2000 年の間に著しく変化しました。でも、20 万年前のかつての心は、まだ残っているらしいです。



今の現代社会に足りない、例えばお隣の人との近所づきあいなんかは、杉並だけでなく他の地域でも共通するものです。そのような根源的なところ、さらに根源的なところは何かを考えると、共通することはいっぱいあるわけです。そのようなことをこの活動を通して取り戻したい。駄菓子の子供同士の分けっこという発想は、20 万年前の人間同士分かち合の心に起因していたのです。ところがゲームができてから、自分が楽しむだけのために、お小遣いを何万円も貯めて買うようになりました。今の子供たちは、分けっこする経験が殆どないのです。でも、その子が悪いのではなく、我々が社会環境を一緒に作り出していくのが大事なのかなと思いますが、いかがでしょうか？

このような講座でこういったことを示唆することによって、みなさん改めて気付くわけです。一旦気付いていくとどんどん心も変わりますが、その心は微妙で、自分のためと他者のための間で常に格闘場面がありますが、それも大事なのです。常に葛藤場面を作りながら、どのように生きていくかを考えることが重要なのかな、と思います。

プラス 人間の豊かさ、発想の組み合わせが大事です。

例えば、おばあさんにこれをいろんな色で作るようお願いしたところ、一色でしかできないと言うのです。今までの習慣や昔からの美的感覚から、なかなか抜け出せないのです。 冒険的に実験的に、色んな色を入れてくださいとお願いしたのですが、真面目なのでピシッと作る。そこで印象派やキュビズムの画集を見せて、ランダムでよいことを訴えて、少し冒険ができてきたのがこちらです。私のイメージにはまだ遠いのですが、大人の人の学習の変容の度合いが分かりました。もっと冒険しましょう、と次をまたお願いしているところです。人間、大人の学習には長い時間が必要なんですね。もしかしたら、次回ぐしゃぐしゃとした斬新な、渋谷のヒカリエあたりでなら高く売れるようなものが出来るかもしれないですよ。

アイディアのもとには山ほどあります。色々なものごとの組み合わせ、それが大人の学習の重要なところだと思います。酒蔵の唯一産業廃棄物はこの袋でした。これが山ほどです。これをおしゃべり手芸の会に持っていったところ、おばさま方色んな知恵を出し合って、いろんなものが次々できあがりしました。このバッグはあるおばさんが、切り裂いて組んで作ったらしいですが、我々から流行を生み出すこともあり得ますよね。



また、一人でやるのではなく、分業制にして楽しくおしゃべりしながら出来ます

よね。こういう風に無限の楽しいものづくりができるんですよ。おしゃべりだけだったらしゃべる場だけ、もの作りしかなかったら工房だけ、で終わってしまいます。これを活かしながら、いかに地域に開いて、その地域は杉並から日本各地との交流も開きながら、ということになったりと。

素材やアイデアや題材は、何でもアリです。あとは皆さんの人生の経験知、みなさんそれぞれの持ち味、そして考え方はいかようにでもですから、個々の趣味が更に広がることもよいと思いますし、全く新しい出会いや関心が生まれるかもしれません。

何でもアリでひろがってゆき、結果的には私たちの未来の人生、未来の社会を創ってゆく、そんな活動になればと思います。マニュアル発想も脱却して、もう一度こどもの頃の自由な発想に戻って、何でも私たち独自で生み出してゆく気概で行きたいと思います。コミュニティの中で閉じずに外からも、誰でも来てもよいような場でも活動があると望ましいので、東高円寺商店街や妙法寺で後半に何かすることも考えています。また、地域同士でも交流ができます。雲をつかむような話ですみませんでした。

次回「わたしのだがしや楽校論」というテーマで一人ずつ順番に発表することにしましょう。それぞれ、だがしや楽校をどのように理解したのか話してみてください。

なお、6月4日講義記録4Pの下の空白部分、6Pの写真のみのページ(写真は12pと重複)が気になりました。修正できたらお願いします。